

原子力システム研究開発事業－特別推進分野－中間評価 総合所見

研究開発課題: 炉心損傷時の炉心物質再配置挙動評価手法の開発

研究代表者(研究機関名): 飛田吉春(独立行政法人日本原子力研究開発機構)

再委託先研究責任者(研究機関名): 守田幸路(国立大学法人九州大学)

研究期間: 平成22年度～平成25年度(4年計画)

項目	要約		
1. 研究開発の概要	既存の高速炉の安全評価に資するため、炉心損傷時における炉心物質再配置挙動で重要な炉心物質流出挙動及び堆積デブリの自己平坦化(セルフ・レベルング)挙動に対する評価手法を開発する。		
2. 総合評価	<table border="1" data-bbox="320 757 411 1093"> <tr> <td data-bbox="320 757 411 1093">A</td> <td data-bbox="411 757 1369 1093"> <p>一般的に適切なマネジメントの下、着実に研究が進められており、炉心溶融進展事象評価手法開発に関する貴重なデータが得られ、期待通りの成果が見込めることから研究は継続すべきである。</p> <p>A. 期待以上もしくは期待通りの成果が見込め、継続すべきである。</p> <p>B. ほぼ期待通りの成果が見込め継続すべきであるが、計画の一部見直しが必要である。</p> <p>C. 進捗に大きな遅れがあるなど、成果がほとんど見込めない。</p> </td> </tr> </table>	A	<p>一般的に適切なマネジメントの下、着実に研究が進められており、炉心溶融進展事象評価手法開発に関する貴重なデータが得られ、期待通りの成果が見込めることから研究は継続すべきである。</p> <p>A. 期待以上もしくは期待通りの成果が見込め、継続すべきである。</p> <p>B. ほぼ期待通りの成果が見込め継続すべきであるが、計画の一部見直しが必要である。</p> <p>C. 進捗に大きな遅れがあるなど、成果がほとんど見込めない。</p>
A	<p>一般的に適切なマネジメントの下、着実に研究が進められており、炉心溶融進展事象評価手法開発に関する貴重なデータが得られ、期待通りの成果が見込めることから研究は継続すべきである。</p> <p>A. 期待以上もしくは期待通りの成果が見込め、継続すべきである。</p> <p>B. ほぼ期待通りの成果が見込め継続すべきであるが、計画の一部見直しが必要である。</p> <p>C. 進捗に大きな遅れがあるなど、成果がほとんど見込めない。</p>		